力を合わせて仲間をふやす

東京土建の「仲間をふやす」運動＝拡大の月間も終盤になりました。各支部ではさまざまな取り組みを通じて、この行動へ参加する仲間を集め、全力で奮闘しています。各支部での取り組みをお伝えします。

3件の加入書を掲げて笑顔の左から吉川さん、肥野常任、荻原さん、赤松分会長、井口さん

練馬・練馬　労災要求で再加入
低い居住率を克服する

【練馬・大工・赤松勝記】練馬支部の練馬分会では、月間目標8人でスタート。荻原組織部長を中心に「実増を必ず勝ち取ること」、「月間目標をやりきること」を柱に行動に取り組みました。練馬分会の活動地域は商業地域が中心で、分会内の組織率は地域外組合員が中心となっています。このため月間中の訪問行動では、毎回同じ仲間への呼びかけとなってしまうため、分会六役を中心に、昼行動・日曜行動での還方への訪問などにも取り組んでいます。

月間最終盤をむかえ、10月19日時点で分会の残目標は「2」まで来て、分会の雰囲気も良好です。先日の成果は、事業所従業員が、事業所を退職に伴い土建国保もやめていたため、同じ建設業で一人親方になったのであれば、土建国保は継続加入できるよと声をかけたところ、「それは知らなかった」と即再加入となりました。35歳の若手防水工の職人が、労災手続きと土建国保を使い再加入となり、今後の活躍が期待できます。

江東・大島　32人中18人と対話
区外に3グループで

【江東・左官・寺内博通信員】「地域を超えて全組合員訪問」。江東支部大島分会の秋のスローガンの通り、10月14日の日曜日に近隣の区である中央区・墨田区・江戸川区や、江東区でも大島地域外在住の仲間のもとへ3つのグループに分かれて訪問しました。

初めて訪問するお宅が多いので、探すのに苦労したことや、「土建です」というといつもだとすぐ開いた扉が今日はとても重く感じました。

そのような中でも仕事の状況などを聞きながら、健診の受診勧奨やインフルエンザの補助があるので利用してくださいと伝え、目標達成に向けて積極的に訪問行動を行ない、32人中18人の仲間に会うことができました。

また違う分会所属の常任の方が参加して一緒に訪問し、その後の打ち上げでは分会間の交流も深められ、横のつながりを強めることができました。

普段、なかなか会えない仲間に会うことができ、コミュニケーションを深められて良かったです。

足立・花保　10軒以上訪問を
日曜行動にはイベント

バーベキューで交流はかる

【足立・書記・浪江紀之通信員】足立支部では「仲間のもとを10軒以上訪問しよう！」を合言葉に取り組んでいます。また、日曜行動日には全分会がイベントを開催し、仲間に拡大の訴えを行ないました。拡大が一番進んでいる花保分会をご紹介します。

花保分会は組織人数が500人程の支部でも一番大きな分会です。役員さんは日々その組合員さんを訪問し続け、仲間の「こんな悩みを持った知り合いがいるんだよ」「あそこの家は職人さんじゃないかな」なんて情報を基に拡大を進めています。役員の皆さんに拡大のコツをお伺いすると、「いつも笑顔でいる事が大切だよ。言葉は丁寧に、ほがらかに(笑)」「やはり『人×人』なので、第一印象である人柄でも勝負している」との お話を聞く事ができました。

また「正直、不在の時や心ない対応をされてしまった際は心が折れそうになります。しかし、花保分会は笑顔でほがらかに拡大頑張りまして、前向きな言葉を聞く事ができました。

伊藤さんから、対象者がいるとの情報を得ていたため、あらためて伊藤さんを訪問しました。残念ながら、お二人ともこの後後動があるとのことでしたが、翌日の日中に必要書類をそろえて、連絡をもらえることになりました。

その後は3件の組合員宅を訪問し、訪問グッズを渡しながら、組合の組織人員減少の危機的な状況を訴え、仲間の紹介をお願いしました。もちろんペスハイクや健康診断、仕事の話も忘れません。

西品川分会では、阿部分会長を先頭に、支部スローガンである全組合訪問・電話がけを旺盛に行ない、組合員同士のつながりを強めて、拡大に結びつけています。

西東京・第4　地道な活動で達成
世代超え和気あいあい

都築さんと平井さんで森さん宅を訪問し見事に達成しました

【西東京・書記・新井絵梨奈通信員】西東京4分会は「和気あいあいと世代を超えて仲間を集めよう！」をスローガンに秋の拡大を分会一丸となりがんばりました。

写真の撮影に入った10月18日に、分会事業所で新しく新入社員が入るという情報を聞きつけ、さっそく分会で訪問したところ、見事1人加入となりました。その結果、目標5人に対して最後の1人が加入し、見事達成しました。

しかし、順調に達成したというわけではなく、非常に苦戦しての達成でした。9月に拡大が始まり、目標5人のところ、最初に1人加入があったあとは10月に入るまでまったく動きがなく、例年に比べると非常に苦労しました。都築分会長も「今回は拡大行動日に雨が降ることも多く、なかなか思うように訪問行動ができなかった。ただ、地道に活動していたお陰で無事に達成することができた」と今回の拡大の感想を述べていただきました。

他の分会と比べると事業所も少なく、事業所加入が難しい分会ですが、しっかりと仲間のもとに訪問し、仲間のつながりを大切にするのが4分会の強みだと思います。

墨田・あづま　レク成功させる
達成へカウントダウン

決意固めるあづま分会の仲間

【墨田・書記・長妻伸治通信員】現在、5人の加入で分会拡大目標達成まで残2人と絶好調のあづま分会では、第6次行動初日のこの日は恒例の合同群会議を開催しました。墨田支部を中心に活動しているNPOすみださわやかネットが運営する「キラキラ茶家」を会場に毎月17日に行なっています。

7時30分から続々と所属組合員が集まりスタート。今月の群会議での話題は11月に控えた分会レク、そしてなんといっても拡大です。群長の深井さんと石川さんは、組合員ひとりひとりに「まだ組合に入っていない仲間がいたら紹介してください」と訴えました。

この日は、行動日でもあるため、拡大センターにもなっているキラキラ茶家では他の役員は拡大行動を行ないました。目標まであと2人とカウントダウンに入ったあづま分会では、11月の分会レクの成功と拡大運動に最後まで奮闘し、目標達成できるようがんばります。

品川・西品川　分会長を先頭に
居酒屋での話も追求

拡大行動の打ち合わせをする西品川分会の仲間

【品川・書記・吉田ゆめ通信員】西品川分会の拡大行動は、他分会より早い18時半に開始します。行動先は前回の行動の最後に決めておき、集合すると、3人ほどのグループに分かれてすぐ出発です。

第5次行動日のこの日は、阿部分会長行きつけの居酒屋に来ていた組合員の

中野・しやくし　現場の昼休みも
監督署紹介で3人加入

家族慰安で開いたボウリングは盛り上がった

【中野・設計・蒐豊通信員】中野支部やくし分会の秋の拡大は、分会内事業所の元請の安全大会に参加、一人親方労災の加入希望者を確保。8月3日、30日と普段は行けない遠方の事業所を訪問。新規採用者の情報を得て、4事業所で5人が加入しました。

9月2日の日曜日に分会家族慰安として、ボウリング&仲間の交流会を開催し、雰囲気を盛り上げました。月間中、解体業者の法人事業所が、役員の労災特別加入を希望し、監督署から地元の土建を紹介され3人が即加入。

9月27日で分会目標の11人を達成。現場が遠く拡大行動になかなか参加できない分会書記長の大谷さんが、目標達成に刺激を受けて、現場の昼休みに重機のオペレーターに声を掛け、仲間と一人親方労災加入へと結びつけました。

2人の超過達成になりました。これからは、11月に企画している「若手交流会」に、若手後継者の参加を呼び掛ける訪問行動に取組んでいきます。

府中国立・人見　若手には粘りで
楽しくなり誘う側に

【府中国立・書記・佐藤瑞樹通信員】人見分会は府中市北東部の組織人員約280人の分会です。仲間づくり月間では、日常的に行なっている分会内事業所対策と後継者対策を、さらに発展させる活動をしています。分会事業所対策は月間前の準備期間に日中行動も含めて「全事業所訪問」を行ない、新入社員や関連業者の動向、社会保険の相談に乗ることはもちろん、レクや主婦の企画などの紹介も行ないます。

若手後継者対策は、夜の訪問対話の活動が中心となります。仕事に、子育てに多忙な毎日を過ごす若い仲間の個性や仕事、組合との距離感をよく分析し「しつこさ」ではなく、「粘り強さ」で訪問・対話の作戦を進めます。11月3日には、若手後継者対策の集大成ともいえる月間終盤恒例の「分会若手次世代交流会」を開催します。

様々な活動の中で、大きな変化が生まれました。若手の仲間が訪問行動に参加し、「誘われる側」から「誘う側」になったことです。組織拡大とともに組織強化という点で、主体的に行動し、「訪問行動楽しい」という仲間が1人ふえるということは分会にとって大切な財産となりました。

詰将棋の解答

▲1三歩△同桂▲2三歩成△同玉▲3三角成△1二玉▲2一角成△同玉▲3二金△1二玉▲2二金まで11手詰。

町田・町田南　「置き土産」大切に
日曜行動を2日間追加

組合員訪問する平田さん（子どもをおんぶしている）と冨澤さん

【町田・書記・澤海比可瑠通信員】町田南分会の秋の拡大月間は、分会組織部長の組合脱退という、ショッキングな出来事からスタートしました。まだ30代と若い組織部長でしたが、支部青年部でも長く役員を経験し、組織部長としてもこれからの活躍が期待されていただけに、仲間の落胆は大きいものでした。しかし、本人も悩んだ末の建設業からの離職ということで、脱退を受け入れました。脱退にあたり、挨拶に訪れた組織部長が持参した拡大グッズには、お盆休みに地域を歩き回って探した、建設業者リストが残されていました。

この「置き土産」を無駄にしないよう、大西分会長と長谷川書記長が中心となり、昼夜問わずの訪問行動を開始しました。訪問の際には、長谷川書記長お手製の分会新聞を配り、イベントの日程や写真の説明をつうじて対話を重ねました。

苦戦が続いていますが、日曜行動を2日間追加し、最後までやり切る構えです。

江戸川・松江　短期なしで実増
婚活Pの話盛りあがる

【江戸川・書記・安在勇通信員】秋の拡大月間を松江分会は実増をめざして着実に訪問行動に取り組んできました。一時期300人を割りそうになりましたが、10月1日付組織人員は310人に回復し、実増が見えてきました。9月の拡大実績は9人ですが、短期加入者はいません。運もあり、雇用日加入・一人親方労災の組合加入等が集中しましたが、毎年の拡大行動は支部の行動予定日以外の臨時の行動日を分会独自で設定したり、真剣に取り組んでいます。

10月14日の日曜行動では安分会長と安在担当書記で9月の拡大月間の新加入者を中心に加入の御礼をするとともに、拡大のお願いと新入学祝い未申請者への申請やけんチャレプログラム取り組みの呼びかけ、支部独自の婚活パティーやフルハーネス型安全帯の特別教育の宣伝を行ないました。以前の訪問で、去年、3人が婚活パティーに参加して楽しかったという話があった会社を訪問すると今年も3人参加したいとの回答があり、話が盛り上がりました。

松江分会の安分会長（右）が訪問行動でグッズを渡す

多摩西部・玉川　アンケート活用
訪問のきっかけ作る

【多摩西部・書記・渡邉宏規通信員】多摩西部支部の秋の月間は、全組合員が支部機関紙「けんせつ」を多摩西部（9・10月合併号として通常の倍のページ数）を読み、組合や国保のメリットや行事、イベントの周知を広げる運動を取り組んでいます。

特に、玉川分会は、分会執行委員会（9月10日）で各群長へ13日の統一集約日へ必ず参加するように訴えました。群会議を活用し、分会財政で回収・精査しました。集約日では未回収を中心に訪問を行ない、前半戦の9月で74・6%まで到達することができました。

玉川分会の声を聞いてみると、「普段の拡大で訪問しづらい仲間へ訪問するきっかけになった」「組合の行事に興味を持つ組合員がいた」など拡大につながるものが多数ありました。

また、アンケートの結果で各分会の対象者も徐々に上がってきています。秋の月間終了までアンケートの7割回収を目標に奮闘をし、分会組織部長も参加する月間最後の推進委員会では報告をしあっています。

玉川分会は最後まで月間目標、年間目標を追いかけていきます。